



# 東海大学大学院 2019年度 家族看護研究会

家族看護学研究室では家族看護を様々な理論やツールを用いて分析します

今回は、カルガリー家族アセスメントモデルを使用して  
事例検討を行います。



30歳代女性。3歳の子どもと二人暮らし。夫とは不仲で別居し離婚を検討していた。そのような中、今回の妊娠が発覚した。

出産後に養子縁組を決意していたが、妊娠30週が経過した頃に胎児異常がわかった。

想定外の事態に混乱し、意思決定が困難となっている。  
医療者に対する反発も生まれる中、助産師としてどのような関わりができるのだろうか？

プロフィール:新井 陽子(北里大学 生涯発達看護学 准教授)

2004年から北里大学大学院で、産後うつの特長研究を手がけ、2007年北里大学大学院看護学研究科博士後期課程を修了。同年北里大学看護学部に着任。現在、同大学で准教授をされています。周産期メンタルヘルスの諸問題やカルガリー家族看護モデルを軸にした「北里家族看護実践研究会」の活動等でご活躍されています。

2020年3月21日 土曜日  
13:00~16:00

場所 : 東海大学伊勢原キャンパス 3号館5階511号室

アクセス : 小田急小田原線「伊勢原駅」下車徒歩20分  
バス10分(東海大学病院下車)

問合せ先:0463-93-1121(代表) 担当;井上

研究会ホームページ: <http://kazokuns.ihs.u-tokai.ac.jp>

メールアドレス:kazoku@tokai-u.jp

